

あさかぜ

高知学芸高等学校同窓会関東支部

機関誌 39号

2026.9

〒170-0003

東京都豊島区駒込

4-2-34 中城千秋

TEL. 03-5974-2074

第39回関東支部総会は 10月31日(土)にアルカディア市ヶ谷で 下一桁6の期が幹事となって開催します！

○第38回（2025年）関東支部総会レポート

○第38回（2025年）特別授業レポート「トルコで知る地中海国家ローマ」野中恵子氏(25期)

○第38回（2025年）関東支部同窓会写真特集

○SPECIALインタビュー「人生はサバイバル」山下裕二氏(16期)

○各期の声（10期・11期・16期・26期）

○18期生 卒業50周年のお知らせ

○高知学芸高校同窓会 第39回関東支部総会のご案内

○第39回 関東支部総会 特別授業の講師紹介

世代を繋ぐ、学芸の絆

36期 藤原清幸

今年の関東支部総会は、卒業期の下一桁が「6」の各期が中心となり、力を合わせて準備を進めています。

6期・田村さんによる「特別授業」を皮切りに、司会や懇親会の企画・運営などを各期で分担。卒業した年代も歩んできた道も異なる同窓生が、一つの総会に向けてアイデアを出し合う、まさに世代を超えたコラボレーションです。

今年の総会では、16期、26期、36期が在学中、化学の授業やクラス担任、軟式庭球部顧問などでお世話になった尾崎光市先生を高知からお招きします。同じ先生に教わった卒業生が世代を超えて集い、新たな交流が生まれるのも、同窓会ならではの魅力です。

懐かしい仲間との再会はもちろん、先輩や後輩との新しい出会いもあります。同じ学び舎で青春時代を過ごしたという共通点があれば、世代が違っても話が弾むもの。今年の総会が、「再会」だけでなく、新しい「出会い」の場にもなればと思います。ぜひ会場に足を運び、「学芸の

輪」に加わってください。そして、46期以降の下一桁「6」の皆さんにも、ぜひ総会の運営に参加いただき、一緒にこれからの「学芸の絆」をつないでいければと思います。

また、関東支部では総会以外にも、昨年スタートしたゴルフコンペ「あさかぜゴルフ会」や、「芸芸山トレッキングクラブ」など、世代を超えて気軽に交流できるイベントを開催しています。

卒業期や年齢にかかわらず、「学芸」という縁から新しいつながりが広がっていく。そんな関東支部を、皆さんと一緒に作っていきたいと思います。総会を始め、様々なイベントへのご参加をお待ちしています。



6の期メンバー

第38回 (2025年)

関東支部総会 開催

2025年10月25日(土)、東京都千代田区の日本プレスセンタービル内「レストランアラスカ」にて、第38回高知学芸高等学校同窓会関東支部総会が開催されました。今回は卒業期の下一桁が「5」の各期が運営を担当し、1期生から59期生まで93名が参加しました。

来賓として、同窓会本部から野本裕之新会長(21期)、森下表副会長(17期)、大倉啓司副会長(19期)、学校から橋本和紀校長先生、松本直人事務長、蒲原宜彦先生をお迎えしました。

【世代を超えた繋がりを】

中城千秋支部長(18期)からは、昨年度から始めた複数の卒業期で総会運営を担う仕組みが2年目を迎える



中城支部長

たことが報告されました。同期の「横の繋がり」に加え、世代を超えた「縦の繋がり」を深め、若い世代にも参加してもらえ、支部を目指していきたいとの考えが示されました。

総会申し込みや会費支払いのWeb化も進み、従来は案内を届けられていなかった同窓生の参加にもつながっています。また、総会以外にも交流の機会を広げようと、11月には関東支部として初めてゴルフコンペを開催することも紹介されました。「トライ・アンド・エラーで、ま

【新しい風を同窓会に】

同窓会本部からは、今年8月に就任した野本裕之会長(21期)が出席しました。

高知新聞社勤務を経て、現在は高知県事業承継・引継ぎ支援センターで中小企業の事業承継を支援する野本会長。前会長から後任を打診された際、「人には事業を引き継ぐよう、勧めている立場だろう」と背中を押されたというエピソードをユーモア



同窓会本部 野本会長

を交えて紹介しました。「若い世代の視点から、できることは何でもやってみよう」と、諸先輩の力を借りながら同窓会に新しい風を吹かせていきたいとの抱負が語られました。

【70周年へ受け継ぐ「学芸らしさ」】

橋本和紀校長先生からは、在校生の活躍や、創立70周年に向けた母校の近況が紹介されました。

なかでも印象的だったのは、長年学校行事に協力している大学の先生から「学芸の生徒は落ち着いていて、接していると和やかな気持ちになる。学校全体の雰囲気がとてもよい。」と言われたというエピソードです。橋本校長先生は、目に見える実績だけでなく、こうした学校の「空気感」や生徒の姿も学芸が受け継いできた大切な文化・伝統ではないかと語り、70周年を

機にこれからも大事にしていきたいとの思いを述べられました。また、70周年関連の取り組みとして、体育館への大型プロジェクトを設置を目的とした、ふるさと納税型クラウドファンディングについても紹介があり、目標額を達成したことが報告されました。

総会では、この他にも、会計・監査報告、役員改選が行われ、現役員全員の留任が承認されました。

続いて、25期・野中恵子さんによる特別授業「トルコで知る地中海国家ローマ」が行われ、現在のトルコの地からローマの歴史を読み解く講義に、参加者は熱心に耳を傾けました。

特別授業の後は、全員で「さよならは言わない」を斉唱し、故人を偲びながら、第38回関東支部総会を締めくくりました。

(36期 藤原清幸 記)



橋本校長先生

特別授業

トルコで知る

地中海国家ローマ

トルコ研究者・作家

野中恵子氏 (25期)



今年の特別授業は野中恵子さん(25期)を講師にお迎えし、「トルコで知る地中海国家ローマ」と題して行われました。

野中さんは高知学芸高校を卒業後、関西学院大学文学部へ進学。在学中からトルコに関心を持ち、以来、現地取材を重ねながら、トルコの政治、経済、社会、文化について研究・執筆を続けてきました。今回の特別授業では、現在のトルコ、すなわちアナトリアの地から「ローマ」の歴史をたどりました。ヨーロッパとアジア、地中海と黒海を結ぶアナトリアは、古代から東西南北の勢力が交錯してきた土地です。この地を軸に歴史を見ること

<野中 恵子氏 主な活動>

- ・著書
『ビザンツ、オスマン、そしてトルコへ』(彩流社)
『史跡・都市を巡るトルコの歴史』(ベレ出版)
『ドイツの中のトルコ・移民社会の証言』(柘植書房新社) など。
- ・慶應義塾大学非常勤講師
- ・朝日カルチャーセンター講師
- ・外務省通訳研修講師
- ・元早稲田大学エクステンションセンター講師
- ・『FORESIGHT』(新潮社) 執筆者
- ・東京国際映画祭通訳
- ・NHK ワールドニュース同時通訳

で、ローマがなぜ東へ進み、地中海世界を支配する国家となり、やがて帝国の重心を東へ移していったのかを読み解いていきます。

【アレクサンダーの東征】

若きアレクサンダー大王は東征を開始し、現在のトルコ南部にあたるイッソスでペルシア王ダリウス3世を破り、シリア、エジプト、さらに東方へと勢力を広げました。大王の死後、その広大な領土は後継者たちによって分割され、アナトリアにもさまざまな王国が成立します。やがて、そこへ新たに進出してきたのがローマでした。ローマはマケドニアやセレウコス

朝との戦いを通じて東方への影響力を拡大し、ペルガモン王国の領土も遺贈されます。こうしてアナトリアのローマ化が進む一方、東地中海に残された大国エジプトは、強大化するローマの中で独立を守ろうとしていました。

【カエサルとクレオパトラ】

ローマ内戦でポンペイウスを破ったカエサルは、彼を追ってエジプトへ向かい、そこでクレオパトラ7世と出会います。

後世、「大恋愛」として描かれる二人ですが、野中さんが注目したのは、その背後にある政治的な思惑でした。クレオパトラにとっては王位とエジプトの独立性を守ること、カエサルにとっては東方におけるローマの影響力を確かなものにすること。二人の関係を当時の国際政治の中で捉えることで、有名な物語が違った姿を見せます。エジプト滞在後、カエサルはアナトリア北部で抵抗したポントス王ファルナケス2世を短期間のうちに破りました。ここで生まれたのが、あの「来た、見た、勝った」です。カエサルの死後、クレオパトラと結びついたのがアントニウスでし

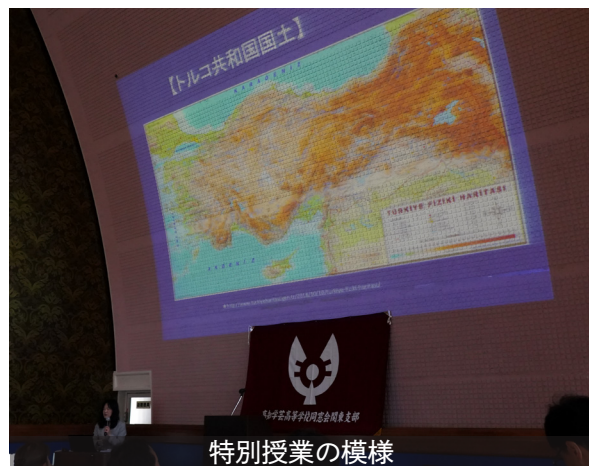
た。二人が会見したのは、現在のトルコ南部・タルソス。東方を勢力基盤とするアントニウスと、エジプトを守ろうとするクレオパトラは結びつきを強めます。野中さんは、こうした動きをローマに対抗する「東方のアントニウス・クレオパトラ王国」への構想として捉えました。

【地中海国家ローマの完成】

その後、アクティウムの海戦でオクタヴィアヌスが勝利し、アントニウスとクレオパトラの時代は終わりを迎えます。やがてプトレマイオス朝も終焉し、オクタヴィアヌスは「アウグストゥス」の称号を受け、ローマは共和政から帝政へと大きく姿を



特別授業の様様



特別授業の模様

変えていきました。

野中さんは、この一連の過程を今回の講義タイトルにもある「地中海国家ローマの完成」と位置づけました。地中海全域に支配を広げたローマにとって、アナトリアは帝国の東方を支える重要な地域となっていました。

また、この地域は初期キリスト教の歴史でも重要な舞台でした。アンティオキアでは早くからキリスト教徒の共同体が形成され、タルソス出身の聖パウロは各地への伝道を通じて、キリスト教が民族や地域を越えて広がるうえで大きな役割を果たしました。

【帝国の重心は東へ】

巨大化したローマ帝国は、次第に統治の難しさを抱えるようになります。東方ではペルシアとの対立、西方ではゲルマン系勢力の浸透が進む一方、東方には豊かな都市や交易圏が広がっていました。

野中さんは、こうした状況を「東方の豊穡」「東方依存の現実」という視点から捉え、ローマ帝国が抱えた矛盾を紹介しました。

やがてディオクレティアヌス帝は、巨大な帝国を複数の皇帝で統治する四分割統治を整えます。その後11世は帝国を再統一し、現在のイスタンブールにあたるコンスタンティノープルを新たな都としました。

その後、帝国は再び東西に分かれ、西側が衰退していく一方、東側の帝国は長く存続します。

現在のトルコという一つの土地から歴史を見直すと、アレクサンダー大王、クレオパトラ、カエサル、アウグストゥス、聖パウロ、コンスタンティヌスといった、学校の世界史では別々に学んだ人物や出来事が、一つの大きな流れの中でつながって見えてきます。

豊富な現地写真を交えた野中

さんの講義は、「ローマ・イタリア」という私たちのイメージを広げ、現在のトルコという土地を軸に世界史を見直す面白さを伝えてくれました。教科書では別々に学んできた人物や出来事が、アナトリアという一つの舞台の上でつながっていく—そんな歴史の見方も、今回の授業の大きな魅力でした。

講義の最後には、高校時代に長く担任を務めた瀧石誠司先生から野中さんへ花束が贈られました。

瀧石先生は、中学1年から高校3年までの6年間のうち、5年間にわたって野中さんの担任を務めた当時を振り返りました。卒業式の日には、クラスを代表して野中さんからキリンのぬいぐるみを受け取ったことが、今も心に残っているといいます。

さらに、野中さんが大学を卒業する頃、一人で43日間のトルコ旅行に出かけ、帰国後、百数十枚もの写真を一枚一枚詳しく説明しながら見せてくれたことも紹介されました。このエピソードからも、当時すでにトルコへの強い関心と探究心を持っていたことがうかがえます。その後も野中さんはトルコという一つのテーマを追い続け、現地取材、

執筆、大学院での研究へと歩みを深めていきました。

瀧石先生は、後に野中さんから送られてきた著書にも触れながら、長年にわたる真摯な研究を続けてきた姿勢は、野中さんの人柄そのものに通じるのではないかと語り、今後のさらなる活躍にエールを送りました。

若き日に芽生えた関心を、40年以上にわたって一つの道として追い続けること。その歩み自体が、今回の特別授業のもう一つの印象深いメッセージとなり、参加者の心にも深く残るとともに、学び続けることの大切さを改めて感じさせてくれました。

(36期 藤原清幸 記)



瀧石先生から花束贈呈

第38回（2025年）

関東支部同窓会
写真特集

前田泰志副支部長（30期）の乾杯で懇親会に入りました。松田恵子（1期）さんによる恒例のフラダンスからスタート。今年は運営期の35期生による企画として、高知県内の高校名を使ったビンゴ・クイズ大会が行われ、各テーブルで大いに盛り上がりました。続いて、「みんなで踊ろう よさこい鳴子踊り」と題し、参加者全員でよさこい踊りを楽しみました。また、今年「卒業50年」を迎えた17期生には記念品を贈呈。高知から参加した森下同窓会副会長を含め、11名の17期生が集まり、節目の年を祝いました。

懇親会の最後には、参加者全員で「学芸讃歌」を大合唱し、来年の再会を約束しました。次回の関東支部総会・同窓会は、2026年10月31日（土）に開催します。会場は市ヶ谷の「アルカディア市ヶ谷私学会館」に変更して開催しますので、皆さま奮ってご参加ください。



前田副支部長の乾杯



卒業50周年の17期の皆さん



松田さん(1期)のフラダンス



ビンゴ・クイズ大会①



25期と瀧石先生・蒲原先生



ビンゴ・クイズ大会②



参加者全員でよさこい



10期の皆さん



35期と橋本校長先生



若手の皆さん



来年総会幹事の6の期



「学芸讃歌」大合唱



参加者全員で記念撮影

SPECIAL
インタビュー人生はサバイバル
酒造りの技術者から眼科医へ

「決断」の軌跡

山下裕二氏（16期）

2、3年前に実現した50年ぶりの再会。同窓生たちの間で、ある驚きが駆け巡りました。かつての中学・高校時代、共に学び、笑い合った、山下裕二さんが、現在は眼科医として地域の医療を支えているという事実です。伊藤さんの記憶の中の山下さんは、「いつもニコニコ」していて「ハッピーな感じ」の子。谷脇先生が担任を務めた中学・高校時代を過ごしたはずでした。



<山下 裕二氏 略歴>

- ・1957(昭和32)年 高知県生まれ
- ・1975(昭和50)年 高知学芸高校卒業
- ・1979(昭和54)年 高知大学農学部農芸化学科卒業、酔鯨酒造に入社し、酒造技術者として勤務
- ・1995(平成7)年 帝京大学医学部卒業し、眼科医となる
- ・1998(平成10)年 東京都中野区東中野に「山下眼科」を開業し、地域医療に携わる

(右 QR コードを御覧ください)



高知大学で農芸化学を学び、地元を代表する酒蔵「酔鯨」で技術者として研鑽を積み、30歳を過ぎてから医学の道へ。一見すると異例の転身に見えるキャリアの裏側には、挫折と葛藤、そして生き抜くための切実な選択がありました。聞き手に同級生の伊藤さんを迎え、山下さんの波乱万丈な半生を振り返ります。

聞き手 16期 伊藤早由
編集 31期 西田順也・36期 藤原清幸

高知大学への進学

そして「酔鯨」での挑戦

◆山下君とは中学・高校と過ごしたけれど、まさか医師になるとは当時は夢にも思わなかったよ。今日は、山下君の人生が、どうしてそんなに大きく変化していったのか、その本音を聞かせてほしい。まずは、高

知大学から「酔鯨」に入社した頃の話から。大学は農芸化学科だったね。

実は、高知大学を選んだのには切実な事情があったんだ。本当は早稲田のような東京の大学へ行きたかった。でも、当時は弟も医学部を目指していて、親から「兄弟二人を東京へやる経済的な余裕はない」と言われてね。「お前も高知大学で我慢しろ、弟にも四国県内(徳島大学医学部)で我慢してもらうから」というのが親の切実な願いだった。

その高知大学の中で農芸化学科へ進んだのは、当時、生物化学に興味があったからかもしれませんが。忘れました。醸造に特段のこだわりがあったわけではなかったんだ。

◆そうだったのか。それで、卒業後に教授の紹介で「酔鯨」へ入社したんだね。

そう。大学3年の時に教授から就職の話をもらったんだ。しっかりした会社で、経済的に恵まれていない身にとって、その内定は大きなチャンスだと思った。

酔鯨へは研究職ということで就職しました。ところが話が違っていて、



聞き手の伊藤さん

現場の雑務ばかりさせられました。初日から、何の訓練もないままトラックに乗せられて営業回りをさせられ、先輩社員との間には、大卒であることへのわだかまりのようなものもあった。

◆技術者としては、大きな成果を挙げたと聞いている。

会社の指示で、東京・王子の飛鳥山公園近くにあった国税庁醸造試験所へ研修に行きました。当時、試験所でテストがあり、たまたま、上位の成績だったこともあり、研修の延長となつて、長く技術を学びました。そして全国新酒鑑評会で金賞を獲るところまで漕ぎ着けた。ただ、社内の組織の壁は厚かった。季節労働者である杜氏に頼り切るのではなく、社員が技術を継承する体制を作るべきだと提案しても、話は通らない。自分が目指す酒造りと、

組織としての現実の狭間で、次第に居場所を見失っていったんだ。

神奈川での葛藤、人生の転機

◆そこで辞表を出す決断をしたんだね。相当な勇気がいったんじゃない？

両親は大反対だったよ。母は毎晩、枕元に来て泣きました。会社からは裏切り者のような扱いも受けた。それでも、もう自分の意志は固まっていた。

転職先として選んだのは、神奈川で親戚が経営に関わっていた飲食企業「メローガーデン」だった。親戚は当時「イタリアントマト」の県内権益を持っており、そこで経営ノウハウを学び、将来の独立を目指したんだ。

◆都会での新たなスタートはどうだったの？

甘くなかったね。経営状態も決して盤石ではなく、身内経営特有のしがらみや銀行からの圧力に直面した。「ここでも自分の求めているものは得られない」と悟った時、私は

30歳になっていた。そんな私に、当時医師として働いていた弟が言ったんだ。「兄貴、はっきり決めないとボロボロになるぞ。資格を取れ」と。そこで出たのが「医師免許」という選択肢だった。

崖っぷちからの医学部受験

◆30歳を超えてからの医学部受験。あまりにも高い壁のように聞こえるけれど、どうやって準備したの？

秋に予備校へ行ったんだけど、「この年齢、この時期からでは合格させるのは無理だ」と門前払いされた。



インタビュー風景（山下眼科にて）

結局、参考書を買って込み、マンションに引きこもって独学するしかなかった。当時、母がそのマンションについてきて、心配そうな顔で私の勉強を見守ってくれました。秋に全国統一模試を受けてみたらE判定だったの、目標は翌々年の国立大医学部とし、翌年の受験は模擬練習として、私立大学を受験することにしました。

すると、なんと最初に歯学部から、続いて帝京大学医学部、そして獨協大学医学部からも合格通知が届き、家族で話し合っ、都内の帝京大学に進学を決めました。

ただ、私立医学部の学費は桁違いで、資金が足りなくなり、高校の恩師の谷脇先生に相談したら、「裕一、来年国公立を受験しても合格する保証はない。学費が高くついても今年に決めなさい。」と言われ進むことにしました。

弟から借りた資金に加え、育英会など多額の負債を抱え、文字通り「借金返済のために生きる」という人生の淵に立たされたんだ。

◆それは並大抵の覚悟じゃないね。卒業後、研修医の給料では利子すら払うのが難しい生活だったのでは？

そうだよ。弟が外科の厳しさから「外科だけは絶対やめろ」と言ったこともあり、弟のすすめで眼科の医局に入った。研修医の給料はわずかで、家賃すら払えない。このままでは一生、弟への借金を返すだけで終わるという焦燥感が常にあった。

教授に相談したら、かわいそうだと言ってくれて、他の学生より多くのアルバイト時間を許可してくれました。それでも足りず、どこかで何か根本的に違う道を模索する必要がありました。そこで、私は株式投資に活路を見出したんだ。

生存戦略としての投資

◆株式投資は、リスクを伴う賭けではなかったかな。

追い詰められた末の「生存戦略」だったね。その時、邱永漢の著作で投資への考え方を学んだんだ。人生の目標を幼い頃から決めている人もいれば、社会に出てから自分の適性や方向性に気づく人がほとんどだ。そして「40歳では遅すぎる。40歳までに人生の方向を決めなさい」と説かれていた。

何もしなければ確実に沈んでい

く。死ぬ気で働いた資金を、徹底的にリサーチして投資に回したんだ。

ある時、100円で買った株が5円にまで下がったことがあった。普通なら紙切れだと思ってしまう。でも、私はそこで買い増したんだ。ある種の変な勇気というか、執念だったね。10円が50円になり、100円になり、200円になっていきました。そうして投資を続けるうちに、資金は大きく育ち、やがて借金の返済やクリニックの開業を支えられるほどになったんです。

この資金があつたからこそ、弟への借金を返済し、開業資金を用意することができました。医師のアルバイトをしても、365日働いてもこれほどの資金を作ることは難しい。でも投資で得られた利益があつたから、今のクリニックを開業することができたんだ。

開業医としての現実と

同窓生へ贈るメッセージ

◆開業して約28年、そして借金を完済したのがちょうど開業から10年目ぐらいだったね。眼科医としての現在はどうかな？

現実には厳しかった。開業当初の患者さんは午前中に2人、午後がゼロという状況でした。家賃が月に50万円から60万円かかる中で、その状況は厳しかった。最初は午前中だけ診療して、午後は全てアルバイトをしていた時代が2、3年続きました。

患者さんというのは、口コミで広がるものなんです。当時は医師がホームページで宣伝することが禁止されていたので、患者さんが来るのを待つしかありませんでした。

その後、患者さんの信頼が口コミで広がり、今のクリニックが存在しています。ライバルも多い環境ですが、幸いにも近隣の同業医師が廃院になるなど、自分たちは生き残ってきました。

ただ、設備投資は数千万円単位でかかります。かつて白内障手術用の機械の購入を検討したこともありましたが、設備投資だけでなくランニングコストが膨大で、冷静に考え直して実施しませんでした。

それでも生き残っているのは、通ってくださる患者さんのおかげだ。従業員も3人程度ですが、どんなに苦しくても従業員の雇用を守り、地域医療を続けることが今の私の責任だと思っているよ。新生児か

ら高齢者まで、地域の様々な患者さんを診ています。

◆山下君の人生は、お世辞抜きに波乱万丈だ。最後に、同窓生みんなに伝えたいことはあるかな？

「これはいかん、と思ったら、やめるときはすぐ。10年もやっちゃダメよ、時間がもったいない」。これに尽きるね。

私は国立大学の教授と社長の話合いで入社したものですから、非常に辞めにくかった。長く居すぎました。偉い人の紹介で就職するものではないーそれが教訓です。酒造りから飲食企業、そして医学へと転身するまで、かなりの時間を要した。合わない場所に10年も20年も居座る必要はない。自分自身と向き合い、納得できる決断を下すこと。その積み重ねが、たとえ遠回りでも、最終的には納得のいく人生を作るのではないでしょうが。

人生は長い。18歳で進学を決めても、50年、60年、70年と働く人生です。一度の決定がすべてを決めるわけではない。就職して「これは間違っていた」と思ったら、すぐ辞めるのも良いと思います。人生は時間が重要で

す。その時々で自分に正直であることが、何よりも大切だと思います。

◆昔と変わらぬ穏やかな笑顔の裏に、そんな激動の道程があつたとは。今日は率直な話をありがとう。

こちらこそ。また同窓会で、みんなと笑い合えるのを楽しみにしているよ。

◇インタビューを終えて

酒造りから医学、そして開業へ。決して一直線ではなかった山下さんの歩みから、人生はいくつになっても軌道修正できると教えられました。50年ぶりの再会だからこそ聞けた話は、私達の今後を考える上で参考になりました。（36期 藤原清幸）



ありがとうございました

各期の声

今、私たち同窓会に

できること(2)

10期B組 瀬戸口 要子

および有志

(村岡道明、公文富士夫、門田義仁、山下敏正、他1名)

昨年の「あさかぜ」で同窓会として協力できることとして、

①大学入試合格実績の向上

②学校経営の改善

の2点について、卒業生としてできることはないかと考えてきた。橋本学校長や同窓会本部の野本会長と会合を行い、右記①について、高校2年生に対して勉学へのモチベーション向上を図るべく卒業生による講演を行うことになった。開催日は6月29日(月)、講師には岡林高弘さん(学芸9期、東京大学(工)卒、住友金属OB、演題「私の足跡」)を迎えて講演会を開催した。生徒たちの熱心な聴講姿勢に講師の岡林さんは「さすが学芸」と後輩たちを絶賛していた。講演で岡林さんは、高知学芸中学・高校時代からその後の長い会社人生の道程(国内から米国やフィリピンなどでの活躍)を穏や

かに語られた。生徒たちの感想文からは、学芸卒業後の豊富な人生経験が聞けてとても貴重な時間になったとの声が寄せられた。今回に引き続き来年以降も学校と同窓会が共催で卒業生による講演会を実施すること。講演会の拡充による生徒のさらなる活性化を期待したい。

講演会後には、橋本校長、同窓会長、講演者、10期メンバー5人で意見交換を行った。

①進学について

・難関校への挑戦が減少しており特に関東への進学が著しく減少している。

・難関校の入試の多様化や今後の変化に対応した進学指導が不可欠。

・父兄も卒業生や外部の人からの話を聞き学芸の進路状況や外部状況を知ることが重要。

・高校の授業料無償化が追い風になるか。

②寄付について

・学芸高校として寄付金の受け入れ体制を整備してほしい。振込用紙の郵送、所得税控除等。

など、ざつくばらんに意見交換ができた。

しかしながら、今年のBOX

学芸によると「昨年、卒業生67期2万3千人に配布し、一口千円以上の発行協力を払い込んだのは694人」であったという。わずか3%である。学芸讃歌にある「名をしたて」の心を今一度考えてみる必要があるようだ。

最後に、10期有志のメンバーは昨年の5名に2名が新しく加わったが、当初メンバーの森口博基君が今年1月病没したことにより、現在6名で活動している。一同、母校学芸のさらなる発展を願っている。掲載する写真は講演会の前々日(6月27日(土))に開催された10期同窓会集合写真です。本有志メンバー6名を含め全46名が参集しました。



10期同窓会の集合写真

3か月が40年になりました

11期 山本博章

1981年の春、大学院は卒業したものの、就職先が決まらず、将来をどうしようかと悩んでいました。そんな時、サンフランシスコ近郊のバークレーにある研究所で、東京大学が現地の研究所と共同で行っている実験に短期間参加してみないか、という話を頂きました。

先のことはあまり考えず、すぐに飛びつきました。両親には「3か月だから行かせてほしい」と頼み込み、許しを得て渡米しました。

私の専門は理論物理でしたが、現地の実験グループではその知識が重宝され、「もっと長く滞在する気はないか」と誘われました。これにも深く考えずに応じ、両親には「少しだけ延びるから」と説明することを何度か繰り返しました。

しかし、面白かったのは最初だけでした。いわば「鳥なき里のコウモリ」で、実験のことは十分に分からないまま、理論屋としての知識で評価されていたものの、すぐに化けの皮が剥がれてしまいました。

そんな私を救ってくれたのが、コンピュータプログラミングの技術でした。データ処理や解析のコード

を書き、その結果から実験で何が起きているのかを判断する仕事に携わるようになりました。ここでは理論家として培った知識が大いに役立ちました。

ところが、バークレーで行っていた実験は、アメリカの景気悪化の影響を受けて終了してしまいました。今後どうしようかと悩んでいたところ、それまで一緒に仕事をしていた実験グループのボスが、新たに責任者に就任した重力波観測プロジェクト LIGO への参加を誘ってくれました。

重力波とは、100年以上前にアインシュタインが一般相対性理論の中で予言した現象で、巨大な天体が運動するときに時空のゆがみが波として伝わるものです。総工費300億円をかけて完成された LIGO は、2015年にブラックホール同士の合体によって発生した重力波の観測に世界で初めて成功しました。

この功績により、私のボスであった Barry Barish、重力波理論の大家である Kip Thorne、そして Massachusetts Institute of Technology の Rainer Weiss の3人が、2017年のノーベル物理学賞を受賞しました。



イタリアにて

た。そのおこぼれとして、私を含む数百人の共同研究者たちも、少しだけご褒美を頂くことができました。話を戻すと、当時の私は重力波のことなど全く知りませんでした。が、「それは面白そうですね。ぜひ参加させてください」と、またしても深く考えずに飛びつきました。ロサンゼルス近郊のパサデナにある California Institute of Technology で重力波研究に参加したのは、1994年9月のことでした。そして、この大学を引退したのが2025年6月です。この間、LIGO の重要な光学系の設計に携わってきました。バークレーへ渡ってから、気がつけば40年以上の歳月が流れていました。

お父さん、お母さん。3か月のはずが、40年になってしまいました。すみません。

添付している写真は、イタリアの遺跡で撮影したものです。LIGO の研究を進める中で、イタリアの研究グループとも長年共同研究を行っており、その際に現地を旅行した時の一枚です。

清潔感ある生き方

16期 國弘幸信

【略歴】慶應義塾大学耳鼻咽喉科頭頸部外科准教授、国際医療福祉大学熱海病院耳鼻咽喉科教授を経て、現在、伊奈クリニック院長

「学芸」を卒業して半世紀が過ぎた。多感で精神が不安定な思春期を「学芸」で過ごせたことは、私にとって幸運であった。ほとんどの同期生（16期生）がそう思っているのではないだろうか。

学芸中学校に入学した私たちを最初に迎えてくれたのは、入学式での先輩たちによる「あさかぜ」の合唱であった。先輩たちの力強く伸びやかな歌声は、入学式の会場であった体育館全体に響き渡った。「私たちは先輩たちから歓迎されている。」私の胸は喜びで高鳴った。

在学中、何度もへこたれそうになった私の心を支えてくれたのは、私たちが在校生に対する先生方の信頼であった。先生方はどなたも、自分



家族写真（宮古島にて）

が教員であること、何より学芸の教師であることに誇りを持っておられた。このことはとりもなおさず、在学生である私たちに愛情を抱いてくれていることだと私は考えた。ただ、「学芸」が教育機関として何を目指しているのか、私たちが在校生に何を期待しているのかを、はつきりと口に出される先生はごくわずかであった。

現在、地元では、「学芸」の学生は「お公家様」と呼ばれているという。「お公家様」という言葉には、「おとなしい」、「礼儀正しい」といった意味が込められていると思う。「正直」、「嘘をつかない」といった意味も含まれているかもしれない。私は、数年前に学芸の校舎の中に何度か入らせていただいたことがある。実に綺麗であった。ゴミも落書きも全くなかった。学生は皆、礼儀正しかった。「学芸」の学風を一言で表現す



ある時の東京での 16 期有志

るなら、「清潔感」ではなからうかと私は思う。「清潔感」という言葉は、「清潔な生き様」という意味を含む。私の父親は、『学芸』の生徒には覇気がない。若いうちはもつと元気がよくてもいい」と度々、私に語った。「学芸」の在校生も卒業生も生きる活力をもつと力強く表現してもいいのかもしれない。

16 期生は来年 3 月までに全員が古希を迎える。私たちの人生は終章に差しかった。私たち卒業生に残された役割は、人生観を形成し後の生き方を決定づけることになる思春期を「学芸」で過ごすことが如何に幸運なことであるかを後輩たちに伝え続けることであろう。愛情と信頼こそが彼らに自信を与え前進させる。

『ツネの娘に生まれて』

26 期 高瀬 真理 (旧姓 高橋)

何を隠そう、私は学芸の教師であつた高橋恒介の娘(次女)である。「ああ、あのツネか!」と思ひ出していただけなら幸いである。そして父に拳骨を食らった方、この場を借りて亡き父に代わって心よりお詫び申し上げます(笑)。

学中に入学した時のことは今でもよく覚えていいる。何人もの見知らぬ先生方から声をかけられた。「高橋先生のお嬢さんやね?」みな一様に、にやつとした表情を浮かべながら――。そう、私は父に顔が似ているのだ!

在学中、私は 2 歳年上の姉と一緒に父の運転する車で通学していた。父は身だしなみの悪い自転車通学の生徒を見つけると、車の窓を開けて大声で注意したり、沿道に車を停めて叱る。私はその度に、姉と後部座席で頭を低くして隠れた。

家庭での《パパ》は大好きだった反面、学校での《父》はあまり好きではなかった。私たち姉妹は英語や数学の錚々たる先生方のお宅や塾に行かされた。「ツネの娘として優等生でない」と思いながらも、私は勉強が大っ嫌いな「外ヅラよし



お父様 (高橋恒介先生) と

子」に育つていった。当然、大学受験は希望通りにはいかず、父には悲しい思いをさせてしまった・・・。

しかし、父は「大学は東京に出た」という姉にも私にも NO と言わなかった。私たちは大学卒業後も高知に戻ることなく、姉は NTT データ、私は資生堂に就職した。父は喜んでくれた反面寂しかったと思う。もし父が生きていたら、子育てを終え仕事や趣味に励んでいる今の私たち姉妹を見て「よく頑張るね。これからは頑張るなさいよ。」と励ましてくれるかな?

父は 2001 年、69 歳で他界してしまつたが、改めて遺品を見ると、どれほど生徒たちを愛し、大学受験に親身になり、学芸を大切に思っていたかがよく分かった。教師冥利に尽きる人生であつただろう。だからこそ、あの中国列車事故の悲しみは亡くなるまで癒えなかった。

私はそんな父を誇りに思う。

正直、学芸での学生生活は私にとって窮屈であつた。しかしこの歳になつて、在学中はあまり話したこともなかった方とも仲良くさせてもらっている。私がツネの娘なので、覚えてくれていて、ツネの思い出話をしてくれる。昨年には、私が彫金の作品を出展した表参道の会場近くのレストランで同窓会をしてくれた。感謝感激である。各分野で活躍されているアラ還達が大声でト土佐弁で話しているのを見ると、笑いが込み上げてくる。

私はツネの娘で良かった! 学芸の友、本当にありがとう。そしてこれからもよろしく!



関東 26 期の皆さんと

卒業50周年のお知らせ



18期 田尾 圭祐

学芸18期卒業の皆さんお元気ですか。大学進学、就職、結婚、子育て等のステージを経て、還暦は既に過ぎ去り、古希まであと数年となりました。まだ変わらぬ仕事に励む方も、リタイアし趣味に勤しむ方もあることと思われます。

私はと言えば、転勤が多く学芸卒業後17回引越をしました。大学は東京を志したのですが、関西の大学だけ合格したので「東京大地震襲来への神様のお告げ」と心得て関西に進学。就職後も関西地区で三度勤務。関西のアクの強さに抵抗はありましたがオープンでわかり易い気質に慣れ、今は関西弁が私の標準語です。研修を兼ねて富山県にも在住。イントネーションの異なる言葉から苦労しましたが、ブリ、甘えび等の魚介類は絶品です。また幸運なことに、ロサンジュルス近郊の会社にも出向、開き直って英語を喋りだすま

では一年半ぐらいかかりましたが、子供二人はデイズニールランドとエンジェルス球場のあるアナハイムで生まれました。40歳を超えて満を持して東京に登場した時は新宿の地下で迷子になり、地上アルタ前に出た時の人の多さにはたまげました。

現在は隠居の身で日がな8千歩のウォーキングを日課とし、月一度のゴルフをする他は、女房の教えで家事にも勤しんでおります。昨年は同窓会で再会した松浦さんの紹介でミュージックビデオに出演したり、同窓会のゴルフコンペなどにも参加して楽しんでます。学芸卒業50年を記念して関東支部総会で皆さんとお会いすることを楽しみにしております。

18期 中城 千秋 (旧姓 森本)

18期の皆さん、いかがお過ごしですか。一昨年65歳になりこれからどう生きていくかを考えた時、元気で楽しくやりたいことをできるのは後10年しかない、とリタイア。のんびりと毎日を送っていますが、現役時は時間が無く楽しめなかった海外旅行やゴルフを満喫。また、お世話になった社会や組織に何か貢献できればと、微力ながら同窓会の関東支部長を引き受け、学芸高校の卒業生で

あることを誇れる環境作りをしたいと、先輩後輩の皆さんと一緒に考えて活動しています。

先日、スペインに移住してから会っていなかった荒川さんと久しぶりに会い、高校時代に心が戻って話が弾みました。ゆとりが持てるようになった今、卒業50年を契機に皆で集まってタイムスリップしませんか。総会にご参加くださった18期の皆さんには、美味しい記念品をご用意しています。

10月16日までに「参加」のお返事を頂いた18期の皆さんには、記念品をご用意いたします。(事務局)

あさかぜでは、「各期の声」に投稿していただける同窓生の皆さんを募集しています。日本全国から関東支部の皆さんに近況をお知らせいただける方は、31期西田まで。
junya.nishida@gmail.com

同窓会関東支部 会計報告 (昨年の第38回総会で報告)

(期間: 2024.10.1 ~ 2025.9.30) 2025.10.19

区 分	項目及び概要	金額(円)
【収入の部】	1.前期繰越金	1,184,023
	2.第37回(2024年) 総会参加費	471,520
	3.年会費 ・ 総会当日分 (86,000円) ・ 振込 (434,139円)	520,139
	4.祝金 (同窓会本部・学芸高校) ・ 寄付	140,130
	5.銀行利息	457
	収入・計	2,316,269
【支出の部】	1.第37回(2024年) 総会関係 ・ 会場費 (743,550円) 記念品 (25,626円) ・ 雑費・交通費 (8,169円) ・ 幹事会会場費等 (12,800円)	790,145
	2.総会案内印刷・発送 ※「あさかぜ37号」は幹事会制作・オンライン発行のため無料	489,771
	3.関東高知県人会(含む振込料)	35,550
	支出・計	1,315,466
【残高】	次期繰越金	1,000,803

同窓会会員各位

2026年9月吉日
高知学芸高等学校同窓会関東支部
支部長 中城 千秋

高知学芸高等学校同窓会関東支部 第39回総会のご案内

第39回総会を下記の通り開催致しますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

- 日 時：2026年10月31日(土)12時00分～15時30分（例年と異なります）
- 場 所：アルカディア市ヶ谷 私学会館（例年と異なります）
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25 TEL.03-3261-9921
- 会場へのアクセス：
 - ・「JR中央線(各駅停車)」【市ヶ谷駅】下車、徒歩2分
 - ・「東京メトロ有楽町線」「東京メトロ南北線」【市ヶ谷駅】下車、「1またはA1出口」徒歩2分
 - ・「都営新宿線」【市ヶ谷駅】下車、「A1またはA4出口」徒歩2分
- 会 費：当日会費 8,000円（56期～：5,000円、学生：2,000円）
年 会 費 2,000円（学生：無料）

式 次 第

開 場（受付開始）	11:30～
総 会（活動報告、会計報告等）	12:00～12:30
特別授業 田村 秀男 氏（6期） 『現代日本経済秘史～現役記者56年の証言』	12:30～13:30
懇 親 会（立食パーティー）	13:30～15:30

- 出欠の連絡：
オンライン出欠連絡(右記QRコード)、または同封ハガキからご連絡下さい。
同封ハガキ投函、QRコードからの連絡の期限は10月16日(金)までです。
- 会費の支払い：
今回は、総会当日の受付での現金払いのみとなっております。ご了承ください。
受付業務効率化のため、年会費は事前の振込(下記)でのご協力をお願いします。

<年会費(2,000円,学生無料)支払いのお願い>

銀行振込(下記)、郵便振込(同封振込用紙)をお願いします。

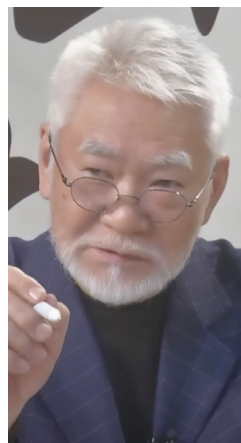
三井住友銀行 上野支店（779） 普通預金「8224917」
「高知学芸高等学校同窓会関東支部 会計 西 雅史」

第39回関東支部総会 特別授業
『現代日本経済秘史』

現役記者56年の証言

産経新聞特別記者・編集委員兼論説委員

田村 秀男氏（6期）



日本経済新聞社入社から56年間、まさに日本の政治経済の表裏をつぶさに見てきた現役記者として、世に知られていない激動の政治経済の裏舞台・人間模様を明らかにします。

【略歴】

日本経済新聞社 本社編集局産業部、経済部、ワシントン特派員、米アジア財団上級フェロ、香港支局長、本社編集委員、日本経済研究センター欧米研究会座長などを歴任。2006年より産経新聞特別記者、編集委員兼論説委員を現任。その他早稲田大学政経学部及び政経大学院非常勤講師、国家基本問題研究所評議員、企画委員など多数兼任。

【主な著書】

「核メジャー」世界を制する者（日経新聞出版）、「人民元・ドル・円」（岩波新書）、「人民元が基軸通貨になる日」（PHP出版）、「日本経済は再生できるか」（ワニブックス）、「安倍晋三対財務省」（扶桑社、共著）、「亡国のザイム原理主義」（かや書房）、「米中経済消耗戦争」（ワニブックス）、「新書 現代日本経済史」（同）他多数。その他、定期連載として、産経新聞「経済正解」（隔週）、産経ネット「お金は知っている」他。ブログ「田村秀男のWEBマガジン 経済がわかれば世界がわかる」を展開。

◎関東支部機関誌「あさかぜ」39号は、関東支部ホームページ上で発行します。郵送はございません。

◎関東支部ホームページ（<http://kochigakugeikantoob.web.fc2.com/>）

関東支部主催イベントのご案内、会員同士の交流のお知らせ、「あさかぜ」のバックナンバー等、ご覧いただけます。総会・懇親会の出席連絡も簡単な操作で可能です。右QRコードからもアクセス可能です。

